

「賑わい都市・新宿の創造」をめざして

新宿のまちは、様々な文学者や画家が暮らし、作品を残した、「土地の記憶」や「まちの記憶」にあふれています。また、音楽・美術・演劇・伝統芸能・パフォーマンス・まち歩き・歴史探訪など多彩なイベントが日々開催され、区民をはじめ、来街者、在勤(学)者など多くの人々を楽しませています。

新宿区基本構想では、「『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」をめざすまちの姿として掲げ、この実現に向け、区は平成30年度から始まる10か年の新たな総合計画及び3か年の第一次実行計画を策定しました。

総合計画では、「賑わい都市・新宿の創造」を基本政策の一つとして掲げ、「新宿の多彩な魅力を発掘・創造・発信し続けることにより、新宿の魅力やブランド力をさらに高め、区民が誇れる、来街者が繰り返し訪れたいくなるまち・新宿を創造すること」や、「新宿のまちを文化芸術活動の発表の場として活用し、新宿の新たな魅力づくりを進めること」により、「文化の創造と発信」を行うことを定めています。

平成28年9月から2か年を任期とする第4期の新宿区文化芸術振興会議では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新宿区の文化芸術振興という観点から、調査審議テーマを「新宿フィールドミュージアム・アクション2020の制定」及び「新宿文化センターの運営方針の明確化」とし、議論を進め、提言としてここに取りまとめました。

この間、新宿区と検討経過を共有し、策定段階であった総合計画や第一次実行計画への反映も図りました。

この報告書が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後を見据え、区民・文化芸術団体・学校・企業・区など、多彩な文化芸術の担い手である「私たち区民」が結集し、新宿ならではの魅力ある文化芸術の創造・発信の更なる活性化の一助となることを期待します。